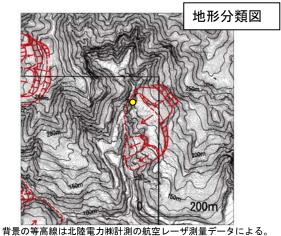
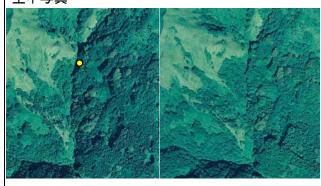
作成日: 2009年1月16日(改訂日: 2009年8月17日)

総図名	七尾	1/2.5 万図名	門前
対象地点の中心	北緯 37°18′47″	東経 136°46′7″	Area E(1)



空中写真



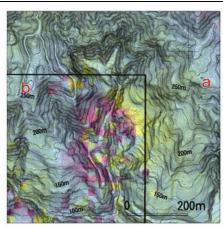
○ 地形分類図と空中写真との同一地点

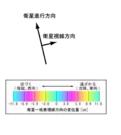
SAR干渉画像:アセンディング;オフナディア角:41.5°;基線長 Bperp:+432 m

撮影年月日: 2007年2月23日~2007年4月10日

解像度:(FBS)/FBD(2007年2月23日)/FBS)/FBD(2007年4月10日)

衛星の視線方向: 西側上空から東向き/東側上空から西向き







背景の等高線は北陸電力㈱計測の航空レーザ測量データによる。Analysis by GSI from ALOS raw data CJAXA, METI

## 備考:

## 斜面 (東側)

① 干渉縞:やや明瞭

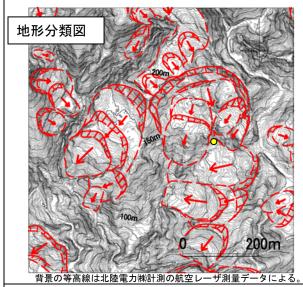
② 視線方向の色変化:(対象地点の東側にある無変化の青色部分 a を基準に東から西へ向かって) 青→黄→赤色

③ 移動方向: 西へ近づくないしは隆起

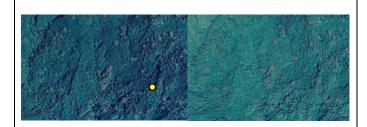
対象地点は西南西に開いた地すべりに位置する。地すべりの移動方向は、干渉縞に見られる西向き成分と整合しており、干渉縞は地すべり移動体の微少な動きを検出したと考える。東から西に向かって青→黄→赤色となり、次ぎに青(谷部)となる。この青と起点の青は1周期、異相が異なっていると解釈される。一方、右岸側(西側)では尾根末端に崩壊崖が発達し、山脚付近に緩斜面が分布する。ここでは、対象地点の西側bに広がる無変化の青色部分を基準に、西から東へ向かって青→赤色(すなわち東に遠ざかるないしは沈降)と干渉縞が変化し、表層風化部及び崩積土砂が東向き成分を持って移動したことが示唆されるが、その東側(すなわち中央を北から南へ流れる河川の谷部)で位相の変化が激しく、確定的に色変化を追跡することは難しい。

作成日: 2009年1月16日(改訂日: 2009年8月17日)

総図名	七尾	1/2.5 万図名	門前
対象地点の中心	北緯 37°18′7″	東経 136°45′40″	Area E(2)



空中写真



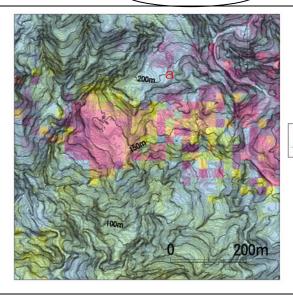
○ 地形分類図と空中写真との同一地点

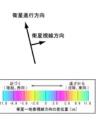
SAR干渉画像:アセンディング;オフナディア角:41.5°;基線長 Bperp:+432 m

撮影年月日: 2007年2月23日~2007年4月10日

解像度:(FBS)/FBD(2007年2月23日)/FBS/FBD(2007年4月10日)

衛星の視線方向(西側上空から東向き)東側上空から西向き







背景の等高線は北陸電力㈱計測の航空レーザ測量データによる。

Analysis by GSI from ALOS raw data ©JAXA, METI

## 備考:

斜面(地すべり)

- ① 干渉縞:明瞭
- ② 視線方向の色変化: (馬蹄形変動の北東側にある青色部分 a を無変化と考え、東から西へ向かって) 青→黄→赤色
- ③ 移動方向: 西へ近づくないしは隆起

干渉縞は地すべり地形の範囲と一致する。地形から判読される地すべりの移動方向は西南西であり、 干渉縞で検出された西向きの動きと整合する。 作成日: 2009年1月16日(改訂日: 2009年8月17日)

総図名	七尾	1/2.5 万図名	門前
対象地点の中心	北緯 37°17′46″	東経 136°45′41″	Area E(3)
地形分類図	diem	空中写真	

背景の等高線は北陸電力㈱計測の航空レーザ測量データによる。

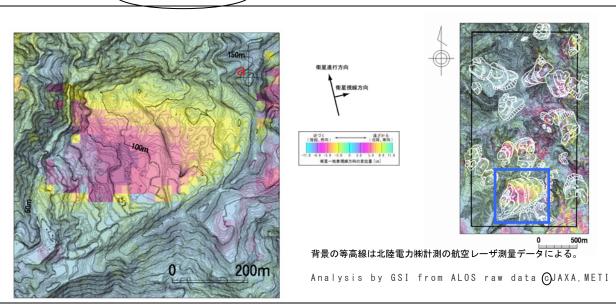
ン 地形分類図と空中写真との同一地点

SAR干渉画像: アセンディング; オフナディア角: 41.5°; 基線長 Bperp: +432 m

撮影年月日: 2007年2月23日~2007年4月10日

解像度:(FBS)/FBD(2007年2月23日) / FBS)/FBD(2007年4月10日)

衛星の視線方向 (西側上空から東向き) 東側上空から西向き



## 備考:

斜面 (地すべり)

- 干渉縞:明瞭
- ② 視線方向の色変化: (馬蹄形変動の東側にある無変化の青色部分 a を基準に東から西に向かって) 青→黄→赤色
- ③ 移動方向: 西へ近づくないしは隆起

対象地点は地すべりに位置する。干渉縞は地すべり移動体の分布と概ね一致し、検出された西向き成分は地形から 想定される地すべりの南西向きの移動方向と整合する。しかし、詳細には干渉縞は地すべり移動体内の谷部に沿って 分布すると見なすことも可能であり、谷沿いに分布する土砂部分の変動を検出した可能性もある。なお、干渉縞は東 から西に向かって青→黄→赤となり、次に青となる。この青と起点の青は一周期、位相が異なっていると解釈される。 それよりさらに西側の青は無変化部分を示しているが、それらの青の位相の切れ目は判然としない。